



# わらしべの里通信

## 設立40周年を迎えて

「わらしべの里」設立の趣旨

わらしべの里は、障害を持つ人とともに、この国に生きる人として生きる喜びをもって生きることが出来る場所を作りたいとの思いで設立されました。

私たちは仲間が喜んで行きたいと思える施設であること。地域の人々に役立ち、地域に支えられる施設であること。「寛容・夢・笑顔」を理念としています。



理事長 大橋 誠

「わらしべの里」は、昭和55年に財団法人として設立され、平成13年に社会福祉法人の認可を受け、今年で、財団法人設立から40年を迎えました。現在の「わらしべの里」は、多機能型事業所として、障がい者の就労継続B型と生活介護事業、相談支援事業などに取り組んでおり、約40名の利用をいただいているところです。この間、栃木市をはじめ関係機関、団体、地域の方々に支えられ今日に至っています。改めて、皆様に感謝申し上げます。

今後は、この40年の節目、また社会福祉法人設立20周年を迎える来年に向けて、新たな取り組みとして、利用者の生活の場を支えるグループホームの設置をめざしているところです。

ここで、改めて、法人名の「わらしべの里」の由来についてご紹介いたします。「わらしべの里」は、日本民話の「人との出会い、心のふれあいを大切にすることで、幸せを自らの手でつかむ」という「わらしべ長者」の教えにならって、設立者(前理事長)の金坂直仁氏が名付けたものです。今後も私たち役員はこの理念を大切に、多くの方々に支えられる、地域に根づいた法人経営に努めたいと思います。今後とも、皆様方のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

## 歩みを振りかえり、想うこと



法人創設者 金坂 直仁

わらしべの里は、財団法人として昭和55年10月に設立し、平成13年10月に社会福祉法人となり、財団法人から数え今年で40周年を迎えます。さらにその前身である「とちぎ子どもの家(昭和51年3月開設)」から数えると44年となります。

思い起こせば今から約40数年前「この国には自ら望まなくして体や心にハンディを持った人々がいる。ともにこの国に生きる人として生きる喜びをもって生きることが出来る場所を作りたい。」と自宅の庭先に地域のお父さん方の協力を得ながらプレハブを1棟建てたことがスタートでした。その後さまざまなたちの協力を得て現在の施設の建設にこぎつけ、今では毎日約40名の利用者が笑顔でやりがいを持って通う場所となっています。

しかし、当時と比べ仲間は高齢化しその保護者も高齢の方が多く「親亡き後の生活をどのように支えるか」が大きな課題となっています。この課題を解決し仲間も保護者も安心して生活ができるようにするためにはグループホームの設置が必要となります。

しかし、私自身は86歳となり今までのように先頭に立って切り開いていく訳にもいきません。これからは法人の役員が力を合わせ、保護者の皆さまや関係者の皆さまのお力添えを頂きながら突き進んでもらいたいと思います。大きく大変な事業ですが、将来の仲間の笑顔を思うと楽しみでもあります。

【わらしべの里では、親しみを込めて利用者さんを“仲間”と呼んでいます】



## 仲間たちと共に歩み続けます



施設長 金坂 尚慶

令和2年の10月、わらしべの里は財団法人の開設から数え40周年を迎えます。これも

ひとえに保護者の皆様、地域の皆様、関係各位のあたたかいご支援の賜と深く感謝しております。また、わらしべの里がこれまで事業を続けることが出来たのは、主役である仲間の頑張りがあったからこそでもあります。心から感謝しています。そして、これからもどうぞよろしく願います。

振り返ると私にとってのわらしべの里は、生まれた時から自宅の隣にあり、幼少期には学校から帰宅するとその足でわらしべに行き、両親の仕事が終わるまで仲間のお兄さんお姉さんと一緒に線香の箱折りやボールペンの組立をするなど、自分の生活の一部でした。

今では、施設長として皆さまと関わらせて頂いています。仲間の皆さんのことを心のどこかで年上の方はお兄さんお姉さんと、年下の方は弟や妹のように感じています。

現在当法人では、日中活動である生活介護事業及び就労継続支援事業B型を実施しており、毎日元気に各部署で様々な作業に仲間と職員で力を合わせ取り組んでいます。他方、仲間やご家族の高齢化が進み「親亡き後」の課題が目の前に迫っている状況があります。

これからも仲間や保護者の皆様が安心してこの地域で生活していけるよう、現在の事業の適切な運営や新事業の実施等、真摯に努力を重ねて参りますので、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。



2014 日帰り旅行 とちぎ花センターにて



現在の施設外観



2019  
金坂直仁理事長退任・大橋誠理事長就任

# 40年を振り返って…想いでのアルバム



1977~80 とちぎ子どもの家設立の頃の様子



【法人沿革】

- 1977 とちぎ子どもの家設立
- 1980 財団法人わらしべの里設立
- 2001 社会福祉法人わらしべの里設立



1980~ 財団法人わらしべの里設立



近所の方たちと  
力をあわせて  
建物を作りました



1991 親子旅行 福島県にて



1995 シンガポールより来賓を迎えて

2001~ 社会福祉法人わらしべの里設立



2002 親子旅行 群馬県にて



2009 春のお花見会にて



～ わらりんの仲間紹介コーナー ～



さをり織り作業に取り組んでいます

みなさん、こんにちは！社会福祉法人わらしべの里に住み着いている妖精（妖怪？）のわらりんです。このコーナーでは、わらしべの里に通う仲間たちひとりひとりにスポットを当て、インタビューをするコーナーです。不定期ですがどんどん紹介します。

今回は、第2号となるこの方です。

石崎 瞳（40）  
 わらしべ歴22年目のベテラン  
 所 属：自主製品事業 さをり織り  
 作業内容：さをり織り、糸整理、出店の呼び込みなど

**わらしべのカナリア**  
 栃木養護学校卒業後、わらしべの家に通い始め、今年で22年目。石崎さんは休憩時間にテンポ良く言葉あそびをして、わらしべの家の支援員に突っ込みを入れられることに喜びを感じています。言葉遊びのフレーズは1人ひとり違うので驚きです。仲間は「漫才」として、あたたくくみています。

**石崎さんのルーティン紹介**  
 石崎さんは自分で作った朝食を食べ、歩いて通所。最近はタブレットでお気に入りのCMを何度もみてノリノリです。午前9時、お仕事開始。いつも瞑想して数十分考えたあとゆっくりゆっくり織りはじめます。

**わらしべのウグイス嬢**  
 さをり織りを丁寧に行っている石崎さん。コロナウィルス感染拡大防止のため、出張販売が4月から中止となっていました。過去に出張販売に出かけた際は、別の才能を発揮していました。開店時間になるとお客様に向けて「いらっしゃいませ！」と呼び込み、購入されたお客様に「ありがとうございます」と感謝を伝えます。そのイントネーションはお客様を笑顔にさせ、「これからも、わらしべの製品買ってね」と購買意欲をくすぐります。それを無意識で行なった自分へのご褒美は「豚のしょうが焼き定食」。ポリコーミーな定食を首もとにナプキンをして、とてもおいしそうに完食



土曜開所での様子

してくれそうです。

**わらりんから**  
 わらりんが、石崎さんを影から応援し続け、22年。これからも体調と自動車に気をつけて、わらしべに通ってください。そして、みんなに癒しを届けてください。ね。…もっとご紹介したいのですが、紙面に限りがありますので、このあたりで終わりにします。機会がありましたら、また続きを書きたいと思えます。それでは、みなさん次号までさようなら。インタビュー・わらしべの妖精 わらりんでした。



## 作業の時間ですが…魚釣り？



何匹釣れるかな～

令和2年6月9日（火）の午後、作業室では仲間たちが魚釣りを楽しむ姿が見受けられました。普段なら作業に忙しい時間帯ですが、ここ数か月は様子が変わってきています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、取り引きのある企業では部品調達の滞りによる操業の停止・生産調整などで、リーマンショックや大震災の影響による不景気などの時と同じような状況により、作業量が減ってしまったのです。

作業量が減ってしまっても、仲間たちの働く場・そして居場所としては変わらないので、仲間たちは毎日楽しく通っています。いつものメンバー、いつもの作業室、いつもの作業…とはならず、作業

が終わってしまい手が空いてしまう時間が多くなってくると手持ち無沙汰に…そんな光景を見かねて、職員さんたちが即席のレクリエーションを企画してくれました！以前も遊んだことのある魚釣りゲームです。竿についている糸の先にマグネット、魚の口元にクリップがつけてあり釣り上げる仕組みです。魚たちは色とりどりの南国の魚やタコやカニがいます。順番がまわってきて次々と魚を釣り上げるうちに、次第に仲間たちが笑顔になっていきます。感染予防のために自粛生活が続く、土曜開所日も自粛中ということもあり、みんなで何かを楽しみたいことが久々だったせいかもしれない。密にな



「こんなに釣れました」と喜ぶ仲間

ることは避け、2人1組ずつで間をあけて魚釣りをしました。順番待ちをしながら、〇〇さんが6匹も釣ってる！△△さんは1匹だけ、頑張ってる！と声には出さなくても見ているだけで楽しくなってきました。

沈みがちなニュースがテレビから流れることが多い中、例え一時でも楽しい時間を味わえたのは嬉しいことでした。これから自粛生活は続いていく見通しですが、たまにこのようなレクリエーションがあると気分転換ができて、また頑張ろう！以前のような生活ができるようになるまで、なんとか乗り切ろう！と思えるのでした。（PORI）



はじめまして。この春から入りました。



# ～わらしべの仲間紹介コーナー～



お仕事中のスナップ

ていたお父さまの影で、入念にムを行いながらプロに

みなさん、こんにちは！社会福祉法人わらしべの里に住み着いている妖精（妖怪？）のわらしべです。このコーナーでは、わらしべの里に通う仲間たちひとりひとりにスポットを当て、インタビューをするコーナーです。不定期ですがどんどん紹介しまーす。

今回は、第3号となるこの方です。

小谷 亮太（43）  
わらしべ歴25年目のベテラン  
所 属：IT事業 パソ工房  
作業内容：ホームページの維持管理・わらしべの里通信への記事執筆、封筒印刷、誕生日カード作成など。

**個性的なクラスメイトとの楽しい高等部時代**  
小谷さんは野沢養護学校卒業後、わらしべの家に通い始め、今年で25年目。高等部時代のクラスの様子について「自分を含めクラスメイトの約4割がB型。みんな個性的でした。冗談を言える友達がすぐ隣にいた」と振り返ります。この時期にワープロと出会いました。

**思い出のワープロ検定**  
当時、情報通信機器製造工場に勤務され

触れていたといいます。また、商業コースの先生の勧めで日商「ワープロ検定」に3年間挑戦。結果は、検定に筆記試験は合格しても、実技試験で不合格ばかり。「自分は知識でカバーしよう」という気持ちになったそうです。

**わらしべの里通信の原点は、高等部での新聞製作**

きっかけは小谷さんが高等部1年から3年間、毎月1回発行した紙面だそうです。そこからヒントを得て、現在は通信の記事を書きながらホームページ管理人として活躍中。みなさんに支えられ、毎月わらしべの里と医療機関のホームページを更新。たまに印刷屋の顔ものぞかせ、封筒印刷をするその姿は青年そのもの。「小谷家の宿命で、禿げましたけど」と笑う。

**現在につながる思い出**  
高等部1年のときに、ある新聞の栃木版に掲載された渡辺範行さんの記事を読んだこと。「わらしべの家というところに学校の先輩がいらっしゃるのか。こんな風に作業ができたなら」。この記事を読まずにいたら、今頃全然違う作業所で的人生を歩んでいたのでは…と懐かしく振り返ります。…もっとお話を聞きたいのですが、紙面に限りがありますのでこのあたりで、終わりにします。機会がありましたら、また続きをお聞きしたいと思えます。それでは、みなさん次号までさようなら。インタビュアー・わらしべの妖精わらしべでした。

## 誕生日会も感染防止対策をしています



わらしべの家では、人に対する思いやりの心を育むため誕生日会を2002年4月から2020年3月までの18年間実施してきました。仲間の会合の後に食堂で開催し、誕生者の紹介からカラオケ十八番披露までみんなで聞いて、祝っていました。

2020年4月からは、新型コロナウイルスが好む「密閉空間」「密集場所」「密接場面」の3つの「密」を避け、昼食前のわずかな時間を利用して誕生日カードを渡しています。5月27日もセレモ

新しい形での誕生日会



## ～ 桜 と 一 緒 に … ～



宮の桜に見守られて・・・

## 車窓からのお花見

令和2年4月6日。今年の春は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で外出は控えなければなりません。また、毎年お花見に訪れている永野川の緑地公園は、昨年の台風19号の永野川氾濫の被害があるようで車いすを使用している仲間、足の不自由な仲間たちは河川敷に下りることが出来ません。このような状況の中、私たちが少しでも明るく楽しい気持ちになれば…と、『車窓からのお花見』を企画してくれました。

近年、仲間の人数がだんだんと増えお花見の際は、全員が一同に送迎車両に乗り込み出掛けることが難しくなってきたため、今年は第1作業所・第2作業所と日をわけて栃木市内の桜を見に行きまし

た。送迎車の窓から桜が見えると、仲間たちが「桜がきれいね」と大喜びでした。

## とてもきれいな宮の桜

栃木市の有名なスポーツのひとつ、宮の桜で記念撮影をパチリ。見渡す限り桜並木が永野川の両岸に並んでいました。こんなに流れが静かで穏やかに見える川が、台風19号が来た日には大洪水になってしまったとは、とても思えませんでした。

## 桜のトンネル

宮の桜の次は、栃木工業高校の近くにある桜を見て、その次には大平の大きな工場の近くにある桜のトンネルをくぐります。きれいなピンク色の花びらが車窓いっぱいには広がります。思い出されるのは、昨年のお花見では、気温が上がらず寒かったので凍えてしまい遊べなかったことです。今年も桜の下で、ロープ送りの・ボール送り・おたまりレー・野球・サッカー・バドミントン・芝すべり・散歩などをして桜の季節を楽しむことができそうです。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、毎年行っている桜の下にも行けませんでした。

## 普段通りの日常は…

車窓から遠のく桜を眺めながら、仲間たちとドライブができてお花見ができたことだけでも今は良いことにしよう。そう思いつつ、少しでも早く終息し、普段通りの私たちの暮らしが送れるようになることを、来年はいつものように楽しいお花見が出来るようになっていてほしいながら、消毒を続けます。(AOC)

## Happy birthday

二ーが行なわれ、5月誕生者8名がその場でこの日出勤していた27名の仲間と9名の職員にお祝いされ、びっくりしながら誕生日カードを手にした表情は誇らしさと少しの恥ずかしさが入り混じっているようにも見えました。歳を重ねることにうれしいような、ちょっと抵抗があるような気持ちにもなりますが、1度しかない人生です。悔いなく生きたいですね。(混む)

2016年3月頃の誕生会の様子。  
みんなでテーブルを囲み、向かい合ってお菓子を食べています。楽しそうですね。





## 令和元年度（平成31年度）年間皆勤賞、3名受賞！



年間皆勤賞表彰に喜ぶ3名。おめでとうございます！

令和2年3月31日午後3時30分から、令和元年度（平成31年度）年間皆勤賞表彰式が行なわれました。対象は、令和2年3月時点で在籍している41名の仲間の中から体調管理に努め、平成31年4月から令和2年3月までの作業日245日を1日も休まず作業をした仲間たちを表彰しました。

**表彰は3名**  
名前を呼ばれたのは3名。平成30年度には6名おりましたので半数に減ってしまいました。お休みした仲間のなかには、昨年10月の台風19号で永野川や巴波川が氾濫し自宅が浸水被害を受けてしまったので、その後片付けのためにお休



輪はいくつ入りましたか？



みした仲間もいます。今回、名前を呼ばれ、びっくりしながら表彰状と高級そうな箱菓子を手にした表情は誇らしさと達成感と少しの恥ずかしさが入り混じっているようにも見えました。

更に3月中旬からは、特別支援学校を卒業した新しい仲間2名が加わり、在籍数43名になったわらしべの家。令和3年3月には、何名が年間皆勤賞を取られるでしょうか？

（混む）



何が釣れるかな？

### 8月～9月の行事

体調に気をつけて  
過ごしましょうネ

※第3金曜日に、給食の前に、誕生会を仲間の会主催で行います。  
※月の最終週の水曜日は、嘱託医問診です。

### これからの行事予定

24日	19日	2月 の行事予定	27日	15日	1月 の行事予定	23日	18日	12月 の行事予定	25日	20日	11月 の行事予定	28日	16日	10月 の行事予定
土曜開所 作業とイベント	嘱託医問診	誕生会（3人）	土曜開所 作業とイベント	嘱託医問診	誕生会（4人）	土曜開所 作業とイベント	嘱託医問診	誕生会（2人）	土曜開所 作業とイベント	嘱託医問診	誕生会（2人）	土曜開所 作業とイベント	嘱託医問診	誕生会（2人）

今後の行事予定については、**新型コロナウイルスの感染状況・社会の動きを見て判断致します。**



## ★ 真剣！楽しいわなげ大会 ★



輪投げ、いっぱい入りました～

令和2年3月14日の土曜開所日は、「わなげ大会」でした。最初の予定では“外出を楽しもう”という企画でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、急遽施設内でできる企画に変更となりました。

職員さんからの挨拶の後、参加者全員にプレゼントがありまーす！ということで、どんなものがあるのか披露してくれました。ディズニーキャラクターやNHKの人気キャラクターなどのいろいろなリュックサックやバッグ、大小さまざまなぬいぐるみもセットでもらえるというお話でした。

**簡単に出来る…思いきや**

わなげと聞いて簡単にできそう…と思ったら大間違いです。これがなかなか入りません。7回投げても入るのは多くて3〜4つ。だいたい仲間は1〜2つ。なかにはまったく入らない仲間もいるほどでした。でも最後に景品はみんな平等にリュックサックとぬいぐるみや水



こちら、いただきました～



筒のプレゼントをもらい、とても満足そうでニコニコ笑顔でした。

ランチは、ケンタッキーフライドチキン 昼食はケンタッキークーのセットを配達してくれました。僕は、ケンタッキーにはなかなか食べに行く機会がないので、とてもおいしくいただきました。大満足でした。最初は、グループ外出の予定だったのがっかりしましたが、このような時期では仕方ありません。参加者へのプレゼントやお昼ごはんの手配などいろいろ準備してくださった職員さんたちに感謝です。

これからも新型コロナウイルスによる外出自粛の要請のため土曜開所日の中止、休日は家から出ないなどしばらくは我慢の日々が続きそうです。いつになったら、なんの心配もなくマスクの残りを気にせずに、青空の下でお散歩できるのかな（PORI）



プレゼントをもらって微笑む2人

参加賞のプレゼントを  
たくさんもらって、  
みんな嬉しそうですね～♪





# 桃の節句を今年も祝える幸せ



「ひなまつりピース！」

わらしべの家でも令和2年3月3日（火）午後2時45分から、仲間の会主催による「ひな祭り会」が開催されました。「仲間の会年間計画」のなかのひとつの行事として組まれ今年で13回目になりました。

最初に、おちゃめさんが開会の言葉を言い、通信力ラオケにあわせ「うれしいひなまつり」を歌い心が暖まり、「紙コップを持ってください。乾杯」という音頭を皮切りにみんなで仕事のこと、日常生活での出来事を話題に楽しい「おしゃべり」をしながら時間を過ごしたあと、仲間たちは塗り絵を楽しみました。2019年度に入った4名の仲間にとっ

では初めての経験で「大人でも塗り絵するの？」という表情を浮かべていましたが、塗り始めたら幼い頃にタイムスリップし30分後テーブルごとに個性あふれるひな壇コレクションが完成しました。コレクションを女の子たちにプレゼントした男の子の仲間たちの顔は笑顔でした。  
（混む）



2人で上手にぬれました

## あの頃…みんなでお出掛けしましたね【平成30年11月頃の写真】





# ☆土曜開所日 楽しかったボウリング大会☆



戦況を見つめるボウラーたち

令和2年2月15日の土曜開所日は、ボウリング大会”でした。仲間たちは、ボウリングが大好きですが、家などではなかなかボウリング場へ行けないので、今回もたくさん仲間たちが参加しました。

午前10時過ぎから、サンプラザボウリングにて2ゲームを楽しみました。参加した仲間たちがそれぞれにストライクを狙っ

て1球1球投げました。ピンを倒したい気持ちには皆一緒。だけど、ピンが倒れるように狙って投げて、距離があつてなかなか思うようにいきません。倒れない時はがっかりですが、何本もピンを倒すことができたときは大喜び。ストライクが出た時は、観戦席から大きな拍手が起きました。ボールが持てない仲間は、ソウの鼻のようなスロープを使い転がしました。ゲームの終盤になり点差が開きが出ましたが、点数に関係なくストライクがでるとみんなで喜び合いました。



ボールの行方は…



僕たち学校時代からなかよしです

ボウリング大会の後、昼食を買うためにスーパーやコンビニへ行きました。自分の好きな昼食や飲み物をたくさん商品のなかから選びました。

おいしく食べられた昼食の後、ボウリング大会の1〜3位までの発表がありました。次回のボウリング大会は、4月開催予定です。楽しみましょうね！

(PORI)



# ★土曜開所日 楽しいエコバッグ作り体験★



カメラを描きましたー！



ほかにどんな絵を描こうかな…悩むなあ



ぶどうとメロンを描いています

令和2年2月29日の土曜開所日は、「エコバッグ作り体験」でした。

今まで、和菓子作り体験・スイーツ作り・BBQ大会・すいか割り&そうめん作りの会・もちつき体験・調理体験（ホットプレートを使用し簡単な調理を体験）・ちらし寿司を作る会、益子焼陶芸絵付け体験など様々な体験を行ってきました。今回は、布製のバッグに専用クレヨンで絵を描くという体験でした。自分で考えてデザインや絵をバッグに描くというのは初めてのことでした。

担当の職員さんから「土曜開所日に外に出かける機会が多くなり、買い物などの際にエコバッグがあると便利に使えると思いますので、自分だけのオリジナルデザインバッグをつくってみましょう！」とお話をしてくれました。

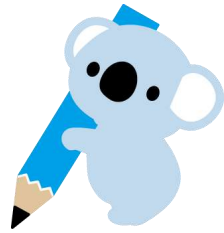
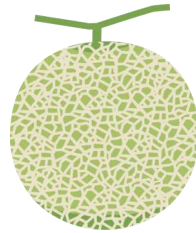
**描きやすいクレヨン**

まずは、専用のクレヨンで絵を描きました。どんな絵を描いたらいいのか思いつかない

仲間は、準備してくれた絵やイラスト（パンダ・ぞう・小鳥などかわいい動物たち、花などの植物、トトロ・ドラえもんなどアニメのキャラクター）を見ながら自由に自分にしか描けないオリジナルデザインバッグをつくりました。

描き終わった仲間は職員さんたちに預け、クレヨンが消えないようにアイロンをかけ仕上げてもらい、後日完成の予定です。出来るのが楽しみです。今度、”外出を楽しもう”等の行事で使いたいです。

体験終了後は、コンビニやスーパーにお昼ごはんを買いに出かけました。お店に行くとお弁当がたくさん並んでいて、どれもおいしそうなので迷いました。わらしべの家に戻り、みんなでおいしく食べました。（PORI）



## 社会福祉法人わらしべの里

『わらしべの里通信』第52号(通巻66号)  
 発行元 社会福祉法人わらしべの里  
 発行責任者 大橋 誠  
 〒328-0011 栃木市大宮町2708-3  
 電話 0282-27-1627  
 Fax 0282-27-1675

E-mail warashibenosato@cc9.ne.jp (事務所)  
 http://www.cc9.ne.jp/~warashibenosato/

わらしべの家

検索

編集後記

創立40周年おめでとうござい  
 ます！

僕がわらしべの家に通所をは  
 じめたからあつという間に29年  
 が経ちました。その頃は、施設  
 長を含めて職員が3名、仲間は  
 15名程でした。現在は職員が9  
 名、仲間は43名に増え、建物は  
 第1・第2作業所の2棟になり  
 ました。当時を知る仲間には、  
 2・3名になりましたが、新しい  
 仲間が沢山入り、わらしべの  
 家もどんどん発展してきました  
 た。陰になり日向になり支えて  
 くださった金坂前理事長をは  
 め、わたしの家に携わったす  
 べての皆さんのお陰で、僕たち  
 は今、こうして働くことができ  
 ます。感謝です。これからもち  
 す。感謝です。これからもち  
 いです。感謝です。これからもち  
 ざい。感謝です。これからもち